

Post-thrombotic syndrome(PTS) ～DVT患者の退院後のQOLまで考える～

山田 悠史

練馬光が丘病院 総合診療科

分野:循環器
テーマ:治療

症例

- 70歳代女性
- 片側下腿浮腫を主訴に来院。腰椎圧迫骨折を契機に活動低下あり、圧迫エコーで深部静脈血栓症の診断。ヘパリンを開始。ワルファリナイゼーションを行った。治療が奏功し退院。しかし退院後も、患肢の下腿浮腫、疼痛が持続している。

Clinical question

- どのような病態が起こっているのか？
- 対症療法の外に、どのような治療があるのか？

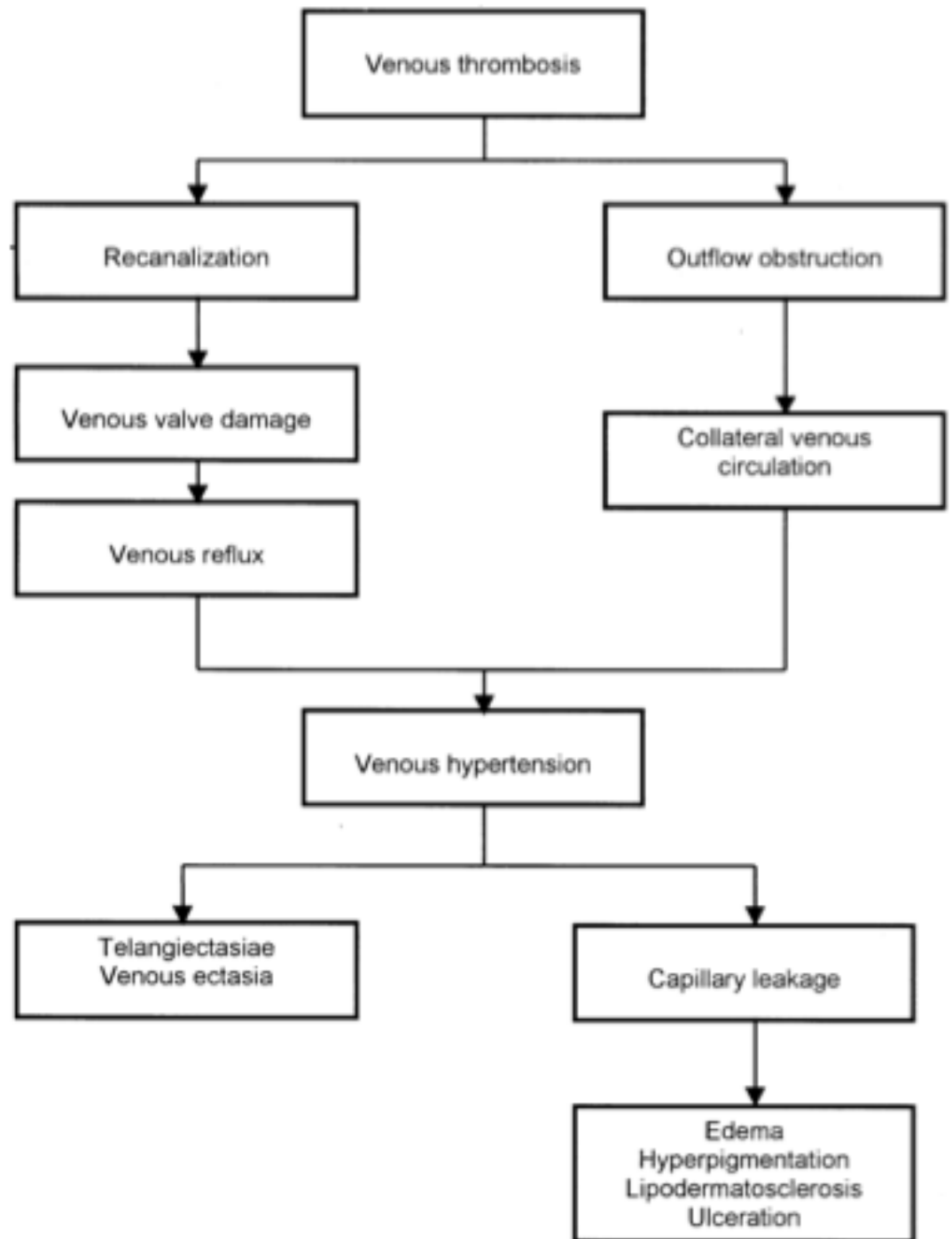
Clinical question

- どのような病態が起こっているのか？
- 対症療法他に、どのような治療があるのか？

PTSとは？

- 患肢の腫脹、疼痛、鬱滯性皮膚炎、潰瘍などを特徴とするDVTの慢性期合併症。
- 症候性DVT患者の20-50%で発症する。発症の危険因子は再発性DVTである。
- DVTに比較し認知度が低いため、研究も進んでいない。

病態生理



症状と主要徴候

Leg symptoms

Signs

Heaviness

Pain

Swelling

Itching

Cramps

Paresthesia

Bursting pain

Symptom pattern

Worse with activity, standing

Better with rest, recumbency

Edema

Peri-malleolar telangiectasiae

Venous ectasia

Hyperpigmentation

Redness

Dependent cyanosis

Lipodermatosclerosis

Healed ulcer

Open ulcer

診断

- DVT発症の3-6ヶ月後にも下肢の疼痛や腫脹といった典型的な症状が出現しているという臨床診断が主体
- 他の鑑別が想起される場合には、静脈弁逆流の画像での証明(超音波ドップラー等)が診断の補助になる
- 最も重要な鑑別疾患であるDVT再発はD-dimerでの除外が有用であるが、陽性の場合には診断的価値は低い(Lancet 1999; 353: 190-195.)

Clinical question

- どのような病態が起こっているのか？
- 対症療法他に、どのような治療があるのか？

治療

- DVT再発予防と弾性ストッキングによる浮腫のコントロール
- 重症例に対するフットポンプの間欠的長期使用 (Ann Intern Med 1989; 149: 1651–1652.)
- Horse chestnut seed extract

一毛細血管からの蛋白漏出を減少させ、白血球の活性化を防いで鬱滞性の炎症を改善すると考えられているが、長期使用による効果と安全性は不明である。

Lancet 1996; 347: 292–294.

治療（潰瘍発症例）

- 下肢挙上、局所治療
- 保存的治療が奏功しなかった症例に対する血管形成術や静脈バイパスといった手術療法

—潰瘍の発症、皮膚変化を減少し、QOLを改善することが示唆されている。

—治療抵抗例や再発例があり、コストがかかることを念頭におく必要がある。

J Vasc Surg. 2005 Dec;42(6):1138-44

社会的インパクト

- コスト

—DVT後のPTSを含む慢性期合併症の治療にかかる費用は急性期治療の3/4程度までかさむという試算がある(Ann Intern Med 1997; 126: 454–457.)

—米国ではPTSの管理に年間1億4百万ドル要している(J Vasc Surg 2001; 33: 1022–1027.)

- QOL

—PTS発症者はQOLが著しく低下し、90%で仕事や家事をやめるなど何らかの活動低下が見られるという報告がある。(J Surg Res 1977; 22: 483–488.)

予防

- DVT発症予防、発症後の適切な抗凝固薬の投与

- DVT発症後の弾性ストッキングの着用

—非盲検化試験や小規模試験が有用性を示唆

—DVT発症2週間以内から2年間着用で発症を50%減少させるという報告がある(Lancet 1997; 349: 759–762)

—皮膚潰瘍、動脈還流不全、アレルギーなどは禁忌

- DVTに対する血栓溶解療法

—静脈開存率は上昇(Thromb Haemost 2001; 86: 499–508.)もPTS発症を低下させるというエビデンスはない

Take Home Message

- PTSは症候性DVT患者の20-50%に起こる。
- 典型的な症状や徴候に基づいて診断する。
- 症状が増悪したらDVT再発を除外する。
- DVT再発の予防が重要。弾性ストッキングが有用かもしれない。